

平成29年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園
砂川幼稚園

当園ではこの度、平成29年度の砂川幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

園是「あかるく・すなおで・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- *教育、保育活動を充実させる
- *教職員の協力や連携体制を強化する

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	園の方針や目標について、保護者の理解を促すように取り組んでいる。	A	・年度初めの教職員全体の会議において、教育方針の確認や教育目標を策定した。 ・毎月2回「園だより」を発行し、その月の保育のねらいや行事等の通知をしている。また、学年ごとに保育目標を定め、その目標を達成するための活動やクラスの様子などを「クラス通信」に載せて、保護者に伝えている。
2	教育課程の編成	園の教育課程・指導計画は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に	B	・教育要領の変更点を確認し、実際の保育に反映させるべく主任を中心に取り組んだ。 ・保育日誌で日々の保育の反省や、翌週の保育の計画をねっているが、各クラスの指導や方針にずれがでないよ

		応じて見直しが行われている。		う話し合っている。
3	指導計画の作成と評価	教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの目標を決め、3年間を通して様々な面で成長できるように、またそれを繋げられるよう、カリキュラムを組んでいる。 ・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の年齢に応じた運動、教材（たのしいおべんきょう）、絵画制作などに取り組んでいる。 ・学園所有の農園で子供達が収穫した野菜を使ってクッキングをする。 ・机と椅子を常時配置し、自分の居場所のある安心感を持たせたり、けじめをつける意識を高めている。 ・施設・遊具の老朽化が進んでいるので、今後見直しをする必要がある。
5	指導とかかわり	幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。年齢や発達に応じた関わり方をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時、降園時に一人ひとりの視診・スキンシップを行い、子どもの様子や気持ちを理解するよう努める。 ・園庭では集団遊びなど、時には用具を使用し、体を動かす活動を多く取り入れる。 ・縦割りチームを組み異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりをもてるような取り組みをしている。 ・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった援助をするように務めている。 ・挨拶、返事、人の話を聞く、自分の思いを言葉で伝えるなど基本的なことを積み重ね、コミュニケーション力を養っている。
6	教職員同士の協力・連携	幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特に保育に問題や課題のある幼児について、教師間での話し合いを密に行い情報共有に努め、全体で注視する環境を構築し、家庭環境も理解しながら、より深く支援する。 ・保育に関して、一人で悩みを持たないよう発表できる日誌を採用している。そして、主任教師が日々チェックし、適切な助言を行える環境がある。
7	研修・研究への取り組み	配慮が必要な幼児に対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 ・研修については、より専門的な知識をえるようなものを選択できる環境が望まれる。 ・支援センター等の専門家からの助言が受けられるように連携を取っている。
8	安全衛生への配慮	トイレの清掃やトイレの正しい使い方を	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後歯磨きをし、歯の健康の大切さを知らせている。 ・正しいうがいや手洗い（指の間、手首等も）を紙芝居

		具体的に示している。		<p>や歌を通じ具体的に知らせ、実行することを徹底させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防についての知識を持ち、真夏以外にも水分補給を促している。 ・男子便器を自動洗浄とした。
9	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルを整備し、教職員間で理解し合うと共に、保護者の方にも配布し共通理解を持てるように取り組んでいる。 ・定期的に避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を深めるよう取り組んでいる。 ・感染症等が流行する時期に合わせて、机やおぼん等の消毒を行い、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
10	安全管理体制の整備	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒等の事故の起きやすい箇所を把握し、改善するように心がける。 ・遊具の安全な使い方や遊び方のルールを子ども達と話し合っている。 ・遊具の下に安全マットを敷き、ジャングルジムで遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。 ・定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
11	安全管理体制の整備	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・常に門を施錠、来園者をモニター付インターホンで確認するなどし、防犯体制を整えている。 ・今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
12	安全管理体制の整備	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時に衣服や身体の衛生状態をチェックしたり、毎月の身体測定時に痣等の外傷の有無を視診すると共に、日々感情面でも虐待がないか注視する。 ・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取り組んでいる。 ・日々の出席ノートや電話連絡、また連絡票を活用して、保護者の方と連携がとれる様にしている。 ・行事のねらいや子ども達の様子を伝え、当日の結果だけでなく、子どもが頑張ってきたことを、家族で認めてもらえるようにする。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	カリキュラムの作成に際し、教育要領の改訂を反映しているか、地域や小学校の実態に応じているかを話し合う。また、日案の作成時には本当に園児の個々に応じた保育がなされるかを検討しなければならない。そして、その方針を主任教諭等の評価・指導を受け見直しや充実を図る。
2	保育の質の向上	保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況（問題点や成長の様子）などを共有し合う。
3		研修に参加する等のスキルアップを目指し、得た知識等を職員会議時に発表できる機会をつくる。
4	保育環境の充実	日々進化する保育用品の導入の検討や、現在導入している物の改良や充実を図る。
5		壁面の模様替えや席替えを行うことにより、定期的には子供達が新たな気持ちで保育に臨める環境をつくる。
6	保護者との連携の強化	保護者に園での様子や教師の指導を常日頃知らせることによって、家庭での子育てにも関わる。
7	防災対策の強化	火災避難訓練では、ランダムに火災発生場所を想定し、あらゆる事態に対応できるように訓練をする。また地震の避難訓練では、遊具なども老朽化により倒壊の恐れがあることを加味する必要がある。
8	安全管理体制の強化	感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
9		定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
10		専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
11		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。

V. 学校関係者の評価

平成29年度より園舎の新築に取り掛かっていますが、完成までは施設の老朽化による災害から子供達を守るため、避難訓練等で徹底して欲しいと思います。

担任を中心に全職員が一人一人の子どもの安心安全な園生活、成長を見守る意識を高め、協力体制を作っているの、より強めて行ってほしいです。